

経営比較分析表（平成29年度決算）

埼玉県 川越市

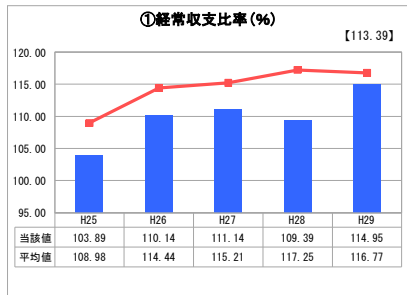
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A1	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)	
-	78.81	99.98	2,106	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
352,433	109.13	3,229.48
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
352,356	109.13	3,228.77

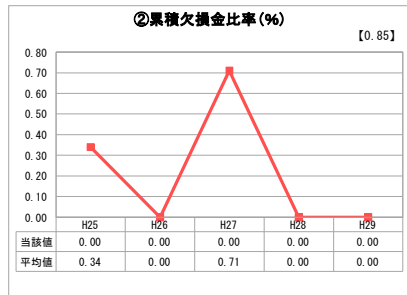
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

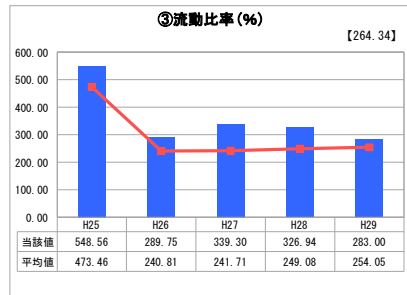
1. 経営の健全性・効率性



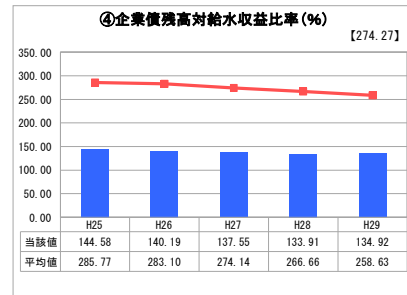
「経常損益」



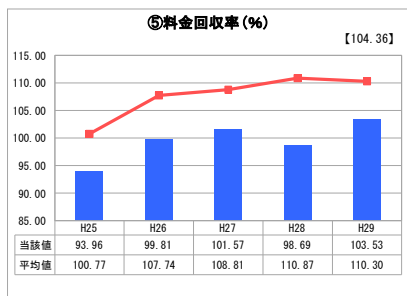
「累積欠損」



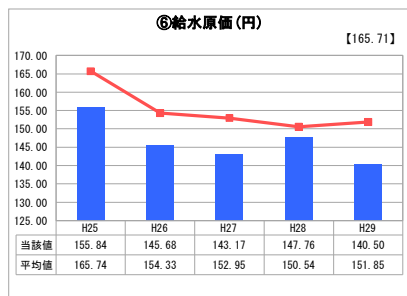
「支払能力」



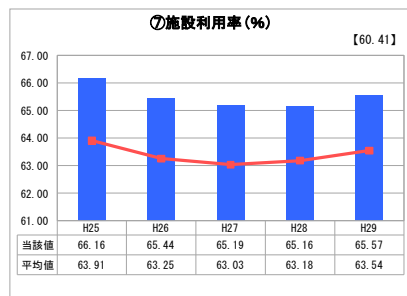
「債務残高」



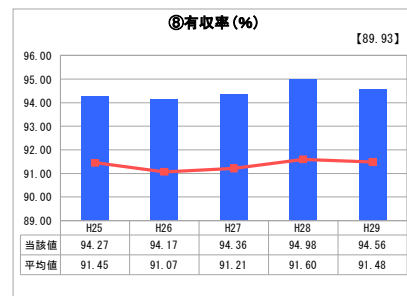
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

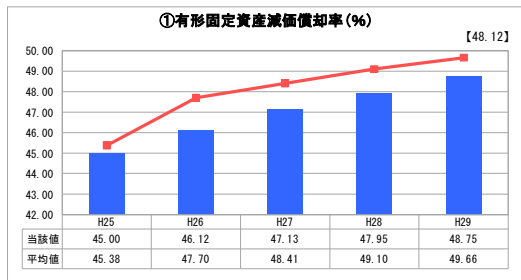


「施設の効率性」

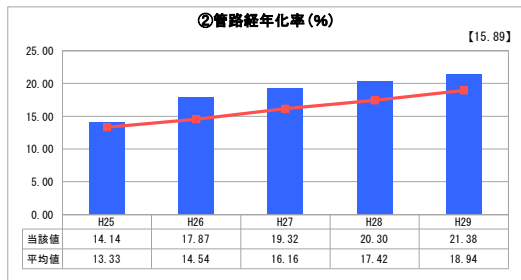


「供給した配水量の効率性」

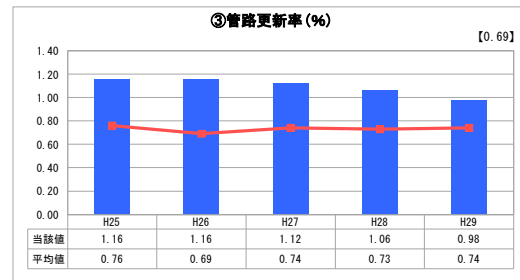
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
H29は経常費用の減少により数値が増加しています。経常費用の減少要因は、退職給付費が減少したこと、大規模な浄水場修繕工事が翌年度の施工となり修繕費が減少したことによるものです。

②流動比率
100%を大きく上回っています。短期的な支払能力があり、問題ありません。

④企業債残高対給水収益比率
類似団体と比較して低く抑えられています。将来負担が少なくなっていると言えますが、必要な更新事業を行っているか検証が必要です。

⑤料金回収率
H29は給水原価の減少により数値が増加しています。今後、大規模な修繕を行うと⑤は減少するため、適正な供給単価の検討が必要です。

⑥給水原価
H29は経常費用の減少により数値が減少しています。費用の約4割は県水購入費であり、単価の見直しがあると数値に大きく影響します。

⑦施設利用率
H29は、水道管の凍結等による漏水の影響で水源井戸からの揚水量が増加したことで、一時的に数値が増加しています。

⑧有収率
類似団体と比べ94%前後と高い数値で安定しています。定期的な漏水調査や老朽管の更新による効果と考えられ、今後もそれらを計画的に行い、有収率の減少を防ぎます。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
類似団体と比較してやや低い水準ですが、増加傾向を示しており、施設全体の老朽化が進行しています。計画的な償却対象資産の更新が必要です。

②管路経年率
類似団体と比較してやや高い水準であり、増加傾向にあります。今後も老朽管の発生が見込まれることから、計画的な管路の更新が必要です。

③管路更新率
類似団体と比較して高い水準ですが、②のとおり経年化が進んでいます。今後はアセットマネジメントに基づき更新を行うことで、施設の機能保全に努めていきます。

全体総括

全体的に経営の健全性は保たれており、類似団体と比較して経営状況は概ね良好であると言えます。課題としては、料金回収率の改善、管路や保有資産の老朽化が挙げられます。今後、計画的な施設の更新が必要であり、将来的には施設のダウンサイジングや経費の削減を検討したうえで、適正な料金水準についても検討を進める必要があります。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。